

日本臨床検査専門医会

平成 29 年度第二回全国幹事会議事録

平成 29 年 6 月 17 日

日本臨床検査専門医会

平成 29 年度 第二回全国幹事会議事録

開催日時：平成 29 年 6 月 17 日(土曜日)15 時 00 分～16 時 55 分

開催場所：日本臨床検査医学会事務所

出席者：登 勉 会長, 東條 尚子 副会長, 本田 孝行 副会長

土屋 達行, 古川 泰司, 宮崎 彩子, 三宅 一徳 各常任幹事

五十嵐 雅彦, 浅井 さとみ, 久川 聡, 松下 一之, 中村 文彦, 横崎 典哉各全国幹事,

佐守 友博 監事

欠席者：木村 聡, 佐藤 麻子, 盛田 俊介, 米川 修常任幹事, 紀野 修一, 萱場 広之, 上原 由紀,

ㄨ谷 直人, 増田 亜希子, 日高 洋, 村田 哲也, 和田 隆志, 大澤 春彦, 長井 篤, 橋口 照人,

柳原 克紀 各全国幹事, 高木 康 監事

事務局：市川 綾子

(敬称略)

定刻、登勉会長挨拶の後、議長として登勉会長を満場一致で選任した。議長は議長席につき開会を宣した。

第 1 号議案 議事録署名人選任について

議長は、本会の議事録署名人の選出を議場に諮り、下記の 2 名を議事録署名人として満場一致で選任した。

議事録署名人：浅井さとみ、五十嵐雅彦 各全国幹事

[報告事項]

1. 各種委員会報告

① 情報・出版委員会

盛田 俊介委員長に代わり三宅一徳庶務・会計幹事より以下の報告があった。

- ・LabCP 投稿規程変更について：現行規程での論文区分「技術、短報」を、改定により「技術、短報、症例・事例報告、オピニオン」とする。情報出版委員会内では上記改定は承認済み。
- ・LabCP35 巻 1 号(信岡祐彦委員担当)は 6 月発行予定で準備中。34 巻 1 号編集の際は投稿論文 1 件を清水 力委員が査読を担当。
- ・衛生検査所協会の協会誌月刊ラボの検査医のページの企画(福地邦彦委員担当)は順調な進捗状況、29 年度と 30 年度の大テーマは、「専門医が教える“検査値異常”を指摘された際に考えること」となっている。
- ・JACLaP NEWS の編集長業務は、増田 亜希子委員から五十嵐 岳委員へ引継ぎを滞りなく終了。次回 131 号は 8 月頃に発行予定。
- ・JACLaP WIRE(盛田委員長担当)は No.187 (2017 年 1 月 13 日)から No.193 (2017 年 6 月 15 日予定)まで発刊。「新規掲載項目」原稿は、メーカ担当が作成後、矢富先生監修のもと掲載する手順に変更された。

- ・その他、五十嵐 岳委員より提案があり、誌上討論企画。討論テーマとして「どうすれば臨床検査医学に新人を引き込めるか」「ワークライフバランスをどう考えるか」「検査技師との関わり方」等、を委員会で検討予定。また、投稿活発化に向けて、LabCP、JACLaP NEWS、JACLaP WIRE への寄稿実績を専門医更新の単位に認めてもらうためにはどのようにすればよいかを確認したい。

LabCP 投稿規定区分変更については、満場一致で承認された。また、JACLaP NEWS 発展のための五十嵐 岳委員からの提案については、登会長より、広報委員会とも関係するので2つの委員会併せて、また検査医学会の田部先生の委員会とも検討いただきたい、と発言があった。原稿投稿を専門医更新時の単位にカウントできるかについては、学会領域研修委員である土屋委員より、機構による審査が行われるため、診療業務である「日常業務での報告書」の代用とすることは困難であり、項目 iv) 学術業績・診療以外の活動実績の一つとして申請していただきたい、との発言があった。

② 教育研修委員会

米川 修委員長に代わり三宅 一徳庶務・会計幹事より以下の報告があった。

- ・教育セミナーは帝京大学古川教授の協力により帝京大学霞ヶ関キャンパスで開催、アクセス良好で、非常にきれいな会場だった。空間的にはもう一部屋あるとよかった。当日の受講生は 41 名。
- ・来年の春季大会における生涯教育講演会は、医療安全総論を鮎澤純子先生、医療現場におけるヒューマンエラーの現状と対策を海渡健先生にお願いする予定。

③ 資格審査・会則改定委員会

土屋 達行委員長より、以下の報告があった。

- ・1月から現在までの入会者が 25 名。教育セミナー受講のための入会者が多かった。審査していただいた委員の先生方に感謝したい。退会者は 4 名、うち3名ご逝去。
- ・新専門医制度に伴う会則改定に関しては、高齢の方、実際の実務についていない方が専門医の更新ができなくなる恐れがあったが、それは回避されそうな見込みである。そのため会則の大幅な変更は必要とならない予定である。機構専門医と学会専門医との区別はなくなり、おそらく機構専門医に統一できると思われるが、他学会との交渉もあるのでしばらく見守りが必要。

登会長より今後の経過を見て会則改定を検討いただきたいとの発言があった。

④ 渉外委員会

東條 尚子委員長より、今年度の振興セミナーについて、テーマは臨床検査の保険適用と課題、ということとで3名の先生に講演をお願いしている。プログラムは以下の通り。

特別講演 1. 「遺伝子関連検査の品質保証と法整備」14:05～14:35

座長 本田孝行(日本臨床検査専門医会副会長)

演者 宮地勇人(日本臨床検査医学会理事)

特別講演 2. 「保険適用でない高額検査と医療 ~LDT は解決策となるか?」 14:35～15:35

座長 本田孝行(日本臨床検査専門医会副会長)

演者 登 勉(日本臨床検査専門医会会長)

特別講演 3. 「臨床検査の認知度(保険適用について)」15:55～16:55

座長 東條尚子(日本臨床検査専門医会副会長, 渉外委員長)

演者 横地常弘(日臨技代表理事副会長(中医協専門委員))

以上のうちの講演2, 講演3についてはそれぞれ新専門医制度の更新のための講習会「臨床検査領域講習」1単位に認定されている。正会員, 賛助会員に案内しているところである, との報告があった。

三宅一徳庶務会計幹事より, 木村聡常任幹事より賛助会員の方向けのお礼の会でもあるので, 賛助会員の席を確保できるような配慮が必要との連絡があったことが報告された。

⑤ 広報委員会

木村 聡委員長に代わり三宅 一徳庶務・会計幹事より以下の報告があった。

- ・五十嵐岳先生を中心とした羊土社「レジデントノート」誌への「臨床検査 TIPS」連載が順調に進んでいる。寄稿歓迎, 詳細は聖マリアンナ医大の五十嵐先生まで。また, 同連載に検査専門医会ホームページの「臨床検査 Q&A」を一部紹介すると, よい宣伝になるので認めていただきたい。
- ・臨床検査振興協議会の広報委員会で, 「りんしょう犬さん」を LINE のスタンプにする企画が承認され, デザイン, 内容を詰めていく段階にある。

三宅 一徳庶務・会計幹事より, 「臨床検査 Q&A」は自由に見ることができる, この中で研修医向けのものを選んで使うようにしてはどうか, と発言があった。また, 土屋 達行幹事より, 「レジデントノート」への執筆はひな形に沿って入力していけばよいので負担がない, と紹介があった。

⑥ ネットワーク運営委員会

宮崎 彩子委員長より, 以下の報告があった。

- ・春季大会の終了後に第1回の委員会を開催, 29年度の専門医会ネットワークシステムの広報をどのようにするか, 話し合った。1) JACLaP NEWS の表紙の下のところと最後のページに Q&A の宣伝を入れてもらうようにする, 2) 学術集会の会専門医会の受付のところで専門医会ネットワークシステムの実際をデモンストレーションできるようにしたい。また, ワークライフバランス委員会での企画の際にブースを出し, ポスターなどで宣伝予定。その他, Q&A システムの内容充実のために機能の修正や, 専門医更新の際に役に立つ機能の充実を業者をお願いしたいと考えている。専門医会ネットワークシステムのページの利用法として求人広告など掲示板機能, 賛助会員のログイン方法の改善等, 委員からの提案もあるので, 業者に費用の見積りを依頼する。

登会長より e-learning のシステムをどのように構築していくかも検討いただきたいとのコメントがあった。三宅庶務・会計幹事より予算申請は第2回総会前をお願いしたいとの発言があった。

⑦ 保険点数委員会

古川 泰司委員長より以下の報告があった。

- ・内保連医療技術評価提案書提出(3月24日): 当会より, 21件の提案を提出, その後2回ほど訂正要求があり, 3/30に受理された。今回も, 採血料が筆頭要望で, コスト調査より62点への増点を希望している。
- ・外保連・内保連合同内視鏡委員会への参加(2月22日)
- ・コスト調査について: 合計41施設の参加があり(項目により参加施設数は異なる), 2月末に集計作業を完了。下記8項目を集計した。結果は, 振興協議会での要望順位付けに用いられた。

2016-2017コスト調査集計結果・合計（円）

コード	項目名	施設数	平均	標準偏差	中央値	25%	75%	現行実施料
D008 17	BNP	21	1295 ± 514		1152	959	1574	1400
D009 20	AFPレクチン分画	5	2630 ± 994		2360	2025	3204	1900
D011 1	血液型【ABO式】	29	794 ± 329		734	574	1087	210
D011 1	血液型【Rho(D)】	29	727 ± 361		669	509	996	210
D011 2 イ	Coombs試験 直接	29	1179 ± 642		1130	623	1610	300
D011 2 ロ	Coombs試験 間接	29	1459 ± 582		1313	1107	1659	340
D011 3	不規則性抗体	28	1783 ± 852		1505	1181	2289	1590
D012 12	クロストリジウム・デフィシル抗原定性	20	1423 ± 334		1413	1151	1654	800

2. 「全国検査と健康展」について

佐藤 麻子全国検査と健康展担当幹事に代わり三宅一徳庶務・会計幹事より、今年も 10 月より開催予定であり、協力をお願いしたいとの報告があった。登会長より、11 月 11 日が中心での開催、学術集会の前後になるのでさらに忙しくなる。昨年から専門医の更新単位がつくようになった。今年も協力をお願いしたい、と発言があった。

3. 第 64 回日本臨床検査医学会学術集会共催シンポジウム

本田 孝行副会長より、11 月 17 日の 14 時 30 分から「10 年後の検査室はどうなっているか」、というテーマで、三重大学・中谷先生、高知大学・松村先生、シスメックスと LSI メディエンスの方でシンポジウムの予定である旨報告があった。

4. 第 51 回日本臨床検査専門医会総会における講演会

登 勉会長より、専門医制度そのものがどうなっていくのか、専門医制度の新しい動向、ということで山田俊幸先生に講演をお願いし、快諾いただいた、正式なタイトル等ご案内できるようになればメール等でお知らせしたいとの報告があった。

5. 第 28 回(平成 30 年度)春季大会

本田 孝行副会長(大会長)より、第 28 回春季大会は 2018 年 5 月 11 日(金)～12(土)、信州大学外来棟の4階大会議室で開催予定。医療安全講習のほか特別講演もしくはランチョンとしてワトソンまたは AI の利用について、またパネルディスカッションかシンポジウムで臨床検査のアジアへの戦略をテーマに、企業の方も含め、何人かで話あっていただきたいと考えている、もうひとつは午後にビッグデータの話を考えている、と報告があった。

6. 日本臨床検査医学会専門医・管理医審議会報告

三宅 一徳庶務・会計幹事より、本日午前開催された審議会について以下の報告があった。

- ・全国研修施設指導者認定については、関西医科大学、聖マリアンナ医科大学から申請が出ていたが、いずれも研修の認定施設になった、そのほか更新の申請が4件出ていた、そのうち3件は認定、1件は臨床検査医学会での発表がない、ということで教育関連特殊施設になっている。
- ・本年度の臨床検査専門医の受験新規予定者 28 名全員資格審査で OK、再受験者は 5 名、合計 33 名の受験予定、認定試験は 8/5,6 に実施。
- ・6 月 8 日付けでいくつか新専門医制度の更新基準が緩和された。ひとつは 3 回以上の更新者に加えて 65 歳以上の専門医も診療実績の提出の免除、65 歳以上の専門医は5年間で 50 単位から 40 単位8割(2 割減)で更新可能、また共通講習の必要単位が従来 5 単位だったのが 3 単位にさがった、また学会参加、論

文発表などが従来最大 10 単位だったのが 15 単位に変更, 講習会での 1 日あたりの獲得単位数が総会で 6 単位だったのが 10 単位まで認められるようになった, その他の会は 1 日 4 単位までだったのが 6 単位までに増えた。

もうひとつが 2017 年度の更新から, 新制度による更新が適用されるはずだったが機構の整備の遅れで 1 年遅れた, 2015 年に獲得した機構認定の講習会の単位も使えることになった。

7. 医学部における臨床検査医学教育の現状調査について

登 勉会長より, アンケートの協力依頼はもう 1 度お願いをして, 最終にしたい, 秋に向かって集計を進めていく, と報告があった。

8. 「自由民主党臨床検査に関する制度推進議員連盟」報告

東條 尚子副会長より 6 月 14 日開催の標記会議について以下の報告があった。

- ・医療法等の一部改正法案が成立(6 月 7 日)したが, これは臨床検査に関する法律を一部変えてほしい, と長らく運動してきたものが通った, ということでその説明があった。
- ・臨床検査については, 改正された医療法等の概要 5 つの内容の中では「検体検査の精度確保(医療法, 臨床検査技師等に関する法律)」が関わる。品質・精度管理について, また, 検体検査の分類についても具体的なこと, 実際の細かい点は今後検討会を開いて決めていくことになる。

登会長より, 今回の医療法一部改正では大きな枠組みが変わった, ということで細かい具体的なところについては 7 月以降検討会で, となっている。「臨床検査における品質精度の確保に関する研究」(矢富先生班長)総括研究報告書が参考になり, いずれ厚労省の HP に UP されると思われる。関連学会等から幹事の先生方に委員等の依頼があると思う, 活発な議論をしていただきたい, との発言があった。

[審議事項]

第2号議案 本団体の法人化について

登 勉会長より, 本会についても法人化, という話を何度かしてきたが, その理由として社会的信用, 認知度が高まり, 賛助会費や寄附金を集めやすくなる, 専門医標榜のための 3 つの条件として, 当会が法人格を有する団体になる必要がある等が考えられる。過去の法人化についての経緯を調べてみたが, 2005 年頃に議論はされているが, 2006 年には保留になり, その後法人化についての議論の記録はない。メリット, デメリットについて考えてみたが, 経済的にも, 定款規則類を整える等考えると, 今すぐに法人化というのはむずかしい。また, 新しい専門医制度の中で今後どのように変わっていくのかまだ十分に見えない段階なので今すぐ急いで 3 つの要件をみたくような体制を作るために法人化をするのはどうかとの発言があった。

本件について議場に諮ったところ, 満場一致で, 法人化については時期尚早との結論となった。

第3号議案 春季大会の専門医指導講習としての開催について

三宅 一徳庶務・会計幹事より, 日本臨床検査医学会の山田 俊幸新専門医制度研修プログラム認定委員会委員長から「臨床検査専門研修指導医のための講習」と認定するような講習を春季大会の 2 日目に組み込んでもらえないか, との要望がある。来年度の春季大会のプログラムはおおむね決定しており, 再来年以降のプログラムで実施の可否を審議いただきたいとのとの発言があった。機構認定の指導医講習はオープンな開催としなければならないが, 場合によっては学会領域委員会認定の指導医講習会とす

る方法も考えられる。本件について議場に諮ったところ、春季大会の2日目に専門医指導講習として企画していくことで、満場一致で承認された。

第4号議案 免疫電気泳動検査に関する実態調査について

登 勉 会長より、免疫電気泳動検査に関して以下の発言があった。

・会員より、免疫電気泳動検査に関して手紙が届いた。内容としては、平成 28 年度の診療報酬改定で外注した検査については点数が210点に下がった。自施設で実施して専門家が読めば診断加算が50点プラスになっているが、残念なことにほとんどの免疫電気泳動検査は外注されている。精度管理・解釈についてきちんとした形で返されているのか危惧され、学会、専門医会で、国内でどのような状況なのか調べてもらいたいとのことだった。

登会長より、免疫電気泳動の実態調査を古川泰司保険点数委員会委員長に一任して実施し、いずれ厚労省に提案をすることについて議場にはかったところ、満場一致で承認された。

以上をもって全議案の審議並びに報告を終了したので、議長は閉会を宣し解散した。

議事録署名人

平成 29 年 11 月 7 日

浅井 さとみ

平成 29 年 11 月 13 日

五十嵐 雅彦
